

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600194		
法人名	株式会社アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり新中野 はすかつぶ館		
所在地	苫小牧市新中野町1丁目3番20号		
自己評価作成日	平成31年2月22日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022.kani=true&JigyosyoCd=0193600194-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様へ安心感を持っていただける様な支援を目指しています。 1日でも長く、自分で出来る事は自身で行って頂けるよう、少しでも自分で出来たと自信を持っていただける様な支援を心掛けています。
毎月、お誕生会などイベントを行い、夏は近所のうどん屋さんへ歩いて昼食を食べに行ったり、お天気の良い日はドライブや散歩へ毎日出かけるよう心掛けています。 全介助の入居者様にも季節を感じていただける様、外気欲を行っています。
職員の趣味のウクレレ演奏会や地域にある幼稚園児との交流やボランティアさんの来訪をイベントごとと呼び行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームみのり新中野」はJR苫小牧駅から車で10分ほどの場所に位置し、静かな住宅地に建っている2ユニットの事業所である。2階建ての建物に同一法人の小規模多機能事業所が併設している。開設8年が経過し、理念にある地域の温もりの中で利用者が自分らしい暮らしができるように管理者と職員は日々笑顔で接している。利用者は併設の事業所行事に交代で参加し、フラダンスや大正琴などを楽しみながら交流している。事業所の夏祭りには地域の人も参加している。多種のボランティアが来訪し、ウクレレ演奏、日本舞踊、アロマハンドマッサージなどで利用者が外部の人と触れ合う機会も多い。管理者は何かあれば市役所に出かけて担当者のアドバイスを運営に反映させている。介護計画では会議で24時間シートを活用し詳細に課題などを話し合い、計画に沿って個別ケアを行っている。協力医の指導の下で看護職員を中心に看取りも実施している。看取り後にケアの振り返りで感じとった思いなどを各職員が報告書を作成して共有している。内容を本部にも報告し、よりよいケアにつなげている。日々の暮らしで利用者は誕生日に好みの料理を楽しみ、レクリエーションのおやつ作りに参加している。散歩や外出行事で季節を感じたり、1階の天然温泉浴を楽しむなど職員の温かなケアに支えられて過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつぶ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週、日曜日の朝に理念・福祉三原則を唱和し、職員間で意識できるようにしている。	法人の基本的な考えと運営方針に沿って、地域の中で笑顔のある生活を支えるという内容の事業所理念を掲げている。新人職員に理念を伝え、昨年は研修の中で理念について話し合い、意識して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の掃除など参加予定	町内会のお祭りを見学したり、「とまこまい港まつり」には、準備中に数名の利用者が全員の綿あめを買いに出かけている。事業所の夏祭りにボランティアも食事作りに参加している。毎年幼稚園児が来訪し今年は手遊びなどをして楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でホームとしての取り組みの状況や日常の様子を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、ホームの取り組みに関する報告や意見交換を行い、サービスの向上に努めている。	併設の小規模多機能事業所と合同の会議で各事業所から報告をし、防災、外部評価などで意見を交換し、身体拘束や虐待防止についてミニ勉強会も行っている。会議案内を送り参加を呼びかけているが、1名の家族参加で固定化も見られる。	会議案内に主となるテーマを記載し、参加が難しい家族の意見を具体的に聞き取って議題に載せたり、また関心のあるテーマで勉強会なども行い参加につながるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には介護福祉課職員に出席頂いている。ホームの活動状況等の報告を行うと共に、必要時の助言を頂き協力関係を築いている。制度的な部分でも行政の立場から詳しい説明をもらっている。	管理者は提出する書類作成について確認している。担当者から資料の情報を得たり、分からない時はアドバイスを得て、運営に活かしながら取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間での勉強会を実施、全職員が意識してケアに取り組んでいるが、外部の研修にも積極的に参加し、伝達会を行っている。また、3か月に1度会議を行っている。	本部で作成した身体拘束等の適正化指針に沿って、3か月ごとに委員会で事例を確認し、ユニット会議で対応などを話し合っている。全体会議で身体拘束禁止行為を確認したり、言葉遣いなども内外の研修で学んでいる。今後は勉強会などの記録整備を考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員間での勉強会を実施、「不適切なケア」に対する意識が希薄にならないよう努めているが、外部研修にも積極的に参加している。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、必要性のある利用者様へ活用できるよう勉強の機会を設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には利用契約書、重要事項説明書を読み上げ、十分に説明し理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、契約時には外部相談機関の説明を行うと共に、面会時、電話にてご家族様の要望をお聞きし、意見を反映させていけるよう努めている。	家族の来訪時にケアや衛生用品の使用方法を話し合い、介護計画の意向も確認している。意見などは個別の連絡ノートに記載して対応している。今後は職員の気づきも含めて記入し、家族の気になる個別の思いの共有を考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートの活用、毎月のユニット会議で意見交換を行っている。年に2回管理者と職員の面談を実施、意見、提案を聞く機会を設けている。各事業所からの意見は本社会議にて吸い上げている。	全体会議やユニット会議ではテーマに沿って連絡事項やケアの意見を交換し、参加できない職員の意見も事前に聞く時もある。提案などは、その都度対応している。本部役職者との個人面談があり、管理者は面談や業務の中で要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算Ⅰの算定をしており適切に賃金改善に当てている。職員の勤務状況、努力や実績を把握し、向上心を持って働けるよう支援している。資格取得支援制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での管理者、役職者研修、定期的なスタッフ研修の他、資格取得支援制度も設けている。また法人外での研修通知を回覧し研修を受ける機会の確保、自主希望による受講を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームで作られている「グループホーム連絡会」を通じ同業者と交流する機会を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつぶ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談の際の情報収集、センター方式の記載をご家族様にお願いし、その情報を基に生活歴の把握の努め、利用者様の要望をケアに反映できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始までの間にそれまでの経緯や不安、要望について話を聴く機会を設け、話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に十分に本人、ご家族の意向を確認し、適切な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が共に楽しみながら、ご本人様のやりたいこと、できることを見つけていくよう努め、関係作りをしている。家事などの役割も一緒に行えるように務めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時にはご本人の近況をお伝えし、特変があった際には電話連絡する等、常にご家族様とコミュニケーションを取るよう機会を設ける心掛けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の友人、知人が気軽に訪ねられようご家族様にもご協力頂き支援に努めている。	昔からの友人が来訪し居室で過ごしている。家族とお墓参りや馴染みの美容室に出かけ、受診の帰りに外食をする方もいる。親族が経営する喫茶店で家族と食事をして楽しんでいる。ドライブの際に馴染みの店を通り会話を楽しむこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操、レクリエーション等全員が参加できる様声掛けし、職員が利用者間の仲立ちを行いながら皆で楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつぶ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談、協力の意思をご家族様へお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1度のユニット会議で入居者様のニーズ、行動や発した言葉をアセスメントし意向の反映に努めている。すぐに実行できることは即座に対応できるよう努めている。	入居時に利用者のアセスメントを行い、その後センター方式のシートを活用している。シートの中で担当職員は「B-3」シートを更新しているが、全利用者との更新までには至っていない。	全員のセンター方式「B-3」シートを作成し、利用者との会話から具体的に引き出し、本人の暮らしの習慣、趣味、嗜好などを記載し、介護計画の意向につなげる工夫に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルやご家族様にセンター方式の記入をお願いするなど情報を頂き、細かな情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や性格等の事前情報を元にしなが、現在の生活状況、心身状況等を的確に把握できるように記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々入居者様やご家族様と情報交換、コミュニケーションを図り、月1度の会議で課題と対策を検討し介護計画として立案している	担当職員のサービス評価をもとに、Eシートを活用し、会議で利用者の言葉、課題、可能性などを話し合い、4か月ごとに介護計画を作成している。生活記録に実施内容や変化なども記載し見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の言動や介護計画に沿った支援を記録しプランの実践、評価に役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じて、ご本人、ご家族様のニーズに対応できるよう都度支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安全、安心した暮らしを楽しむことができるよう、買い物、外食等の機会にも事故等が起きないよう職員がしっかり付き添っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診支援を行っている。利用者様、ご家族様の希望に応じ協力医による往診を受ける等適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医の往診を受けている。かかりつけ医を継続の場合は家族が通院に対応し、健康情報を口頭や書面で伝えている。変化がある時は家族と一緒に職員も同行し説明を受けている。受診内容は「受診記録」で利用者ごとに記録している。	

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつぶ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤にて看護師配置、必要時相談、助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が面会に行く等し、ご本人様の状況の確認を行っている。病院、ご家族と情報交換、相談を行いながら関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における指針を定め、ご家族様への説明、同意を得ている。	利用開始時に重度化の対応と看取りの考えを文章で説明し、対応が難しい内容も伝えている。状態の変化で主治医の判断の下に希望に沿って看取りを行っている。職員は看護職員の指導で、その都度学び看取りケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてのマニュアルを整備し周知徹底を図っている。また会議にて看護師による急変時の対応についての勉強会を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により年2回、日中、夜間想定防災訓練を行っている。訓練時には町内会、ご家族様にも参加、ご協力を頂いている。	消防設備会社の協力で夜間を想定した地震からの火災訓練も行っている。冬季も含めて備蓄品を整備している。地震を想定しケア別の対応を話し合ったが、今後は勉強会で再確認して記録をマニュアルに追加し定期的な確認を考えている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ時の誘導や声掛けには特に注意し、入居者様のプライバシーや羞恥心へ配慮している。	法人研修で言葉遣いなどを学んでいる。記録類は全員分をファイルに綴り、個人名が見えないように工夫している。個人的なことは居室で話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できるような声掛けや、準備をして入居者様の希望に添えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いやペースを把握し、それぞれの希望に応じた生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや整容等個々人の希望に添えるよう支援している		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつぶ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食後にお盆拭きを手伝って頂いたり、食事作りを行い一緒に準備している。	おやつレクを開催して利用者と一緒に南瓜団子やうぐいす餅を作っている。出張握り寿司や出前の弁当を楽しむこともある。誕生日には、生ちらし寿司や鍋物など季節に応じた献立を提供している	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個人々に合わせた量を提供し、形態も刻みやトロミ等、個人々に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。自身でできない方には職員の支援にて口腔内の清潔を保持している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録の排泄チェック表に記載、排泄パターンを把握したうえで、個人々に合わせた排泄支援を実施している	立位が可能であればトイレでの排泄を支援している。夜間のみポータブルトイレやベッド上でのパッド交換で対応することもある。時間帯に応じてパッドの大きさや布パンツとリハビリパンツを使い分け、自立に向けて細やかに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個人々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用、個人々に合わせた排泄支援を実施している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個人々にそった支援をしている	午後からの入浴となっているが、できるだけ利用者様の希望、状態に添って行っている。また入浴されていない期間や希望があれば要望に添い支援している。	主に午後の時間帯に入浴しているが、本人の希望に応じて午前中に入浴したり、2階の利用者も1階の天然温泉浴を楽しむこともある。シャワー浴は、足浴を併用してよく温まれるように配慮している。職員と話しをしながらゆっくり入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人々の身体状況に合わせ、ベッドで臥床して頂く時間や、ソファでくつろいで頂く等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用は個別に薬情ファイルに保管、全職員に周知している。服薬時には飲みこぼしがないよう職員が見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人々の生活歴や力、意欲に合わせ役割や出来ること、楽しみ等張のある日々を過ごせるよう支援をしている。お酒の提供など。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って散歩や買い物等に出掛けられるよう支援している。	普段は、車椅子の方も一緒に近隣の住宅地を散歩したり、公園に出かけている。ドライブで緑ヶ丘公園やサンガーデンに外出している。春に近くの桜を見学したり、5月には川の近くに飾られる鯉のぼりを見て四季折々の季節を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が出来るような方はご家族と相談し、数千円単位で持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ、いつでも電話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様や職員の作品を飾る等明るい雰囲気配慮している。季節感を取り入れる等の工夫もしている。	対面式の台所から居間や食堂の様子が窺える開放感のある室内になっている。大きな窓際にソファを配置して利用者がゆっくり過ごせるように工夫し、雛飾りや桜の装飾など季節感に配慮した環境整備をしている。トイレにボードを設置して、品のある季節の装飾を施している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読んだり、趣味を楽しんだり気の合った利用者同士で談笑できるよう席の配置を工夫、くつろげる環境作りに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や仏壇を含め、馴染みのものや使いなれたものを持ってきて頂き、ご本人様が安心して居心地よく過ごすことができるよう配慮している。	本人が落ち着いて過ごせるように、利用開始時に馴染みの物を持って来てもらうように話している。大切にしていた人形や使い慣れた座布団などを持って来ている方もいる。塗り絵や制作した作品を飾り、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器を使用しても移動もできるような十分なスペースが確保されている。リビングや廊下の歩行スペースには極力物を置かないよう配慮している		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600194		
法人名	株式会社アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり新中野 ななかまど館		
所在地	苫小牧市新中野町1丁目3番20号		
自己評価作成日	平成31年2月22日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022_kani=true&JigyosyoCd=0193600194-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様へ安心感を持っていただける様な支援を目指しています。 1日でも長く、自分で出来る事は自身で行って頂けるよう、少しでも自分で出来たと自信を持っていただける様な支援を心掛けています。
毎月、お誕生会などイベントを行い、夏は近所のうどん屋さんへ歩いて昼食を食べに行ったり、お天気の良い日はドライブや散歩へ毎日出かけるよう心掛けています。 全介助の入居者様にも季節を感じていただける様、外気欲を行っています。
職員の趣味のウクレレ演奏会や地域にある幼稚園児との交流やボランティアさんの来訪をイベントごとに呼び行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週、日曜日の朝に理念・福祉三原則を唱和し、職員間で意識できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の掃除など参加予定		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でホームとしての取り組みの状況や日常の様子を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、ホームの取り組みに関する報告や意見交換を行い、サービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には介護福祉課職員に出席頂いている。ホームの活動状況等の報告を行うと共に、必要時の助言を頂き協力関係を築いている。制度的な部分でも行政の立場から詳しい説明をもらっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間での勉強会を実施、全職員が意識してケアに取り組んでいるが、外部の研修にも積極的に参加し、伝達会を行っている。また、3か月に1度会議を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間での勉強会を実施、「不適切なケア」に対する意識が希薄にならないよう努めているが、外部研修にも積極的に参加している。。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど館)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、必要性のある利用者様へ活用できるよう勉強の機会を設ける。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には利用契約書、重要事項説明書を読み上げ、十分に説明し理解、納得を得ている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、契約時には外部相談機関の説明を行うと共に、面会時、電話にてご家族様の要望をお聞きし、意見を反映させていけるよう努めている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートの活用、毎月のユニット会議で意見交換を行っている。年に2回管理者と職員の面談を実施、意見、提案を聞く機会を設けている。各事業所からの意見は本社会議にて吸い上げている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算Ⅰの算定をしており適切に賃金改善に当てている。職員の勤務状況、努力や実績を把握し、向上心を持って働けるよう支援している。資格取得支援制度を設けている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での管理者、役職者研修、定期的なスタッフ研修の他、資格取得支援制度も設けている。また法人外での研修通知を回覧し研修を受ける機会の確保、自主希望による受講を促している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームで作られている「グループホーム連絡会」を通じ同業者と交流する機会を設けている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談の際の情報収集、センター方式の記載をご家族様にお願いし、その情報を基に生活歴の把握の努め、利用者様の要望をケアに反映できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始までの間にそれまでの経緯や不安、要望について話を聴く機会を設け、話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に十分に本人、ご家族の意向を確認し、適切な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が共に楽しみながら、ご本人様のやりたいこと、できることを見つけていくよう努め、関係作りをしている。家事などの役割も一緒に行えるように務めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時にはご本人の近況をお伝えし、特変があった際には電話連絡する等、常にご家族様とコミュニケーションを取るよう機会を設ける心掛けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の友人、知人が気軽に訪ねられようご家族様にもご協力頂き支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操、レクリエーション等全員が参加できる様声掛けし、職員が利用者間の仲立ちを行いながら皆で楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談、協力の意思をご家族様へお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1度のユニット会議で入居者様のニーズ、行動や発した言葉をアセスメントし意向の反映に努めている。すぐに実行できることは即座に対応できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルやご家族様にセンター方式の記入をお願いするなど情報を頂き、細かな情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や性格等の事前情報を元にししながら、現在の生活状況、心身状況等を的確に把握できるように記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々入居者様やご家族様と情報交換、コミュニケーションを図り、月1度の会議で課題と対策を検討し介護計画として立案している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の言動や介護計画に沿った支援を記録しプランの実践、評価に役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じて、ご本人、ご家族様のニーズに対応できるよう都度支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安全、安心した暮らしを楽しむことができるよう、買い物、外食等の機会にも事故等が起きないよう職員がしっかり付き添っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医への受診支援を行っている。利用者様、ご家族様の希望に応じ協力医による往診を受ける等適切な医療を受けられるよう支援している。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤にて看護師配置、必要時相談、助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が面会に行く等し、ご本人様の状況の確認を行っている。病院、ご家族と情報交換、相談を行いながら関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における指針を定め、ご家族様への説明、同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてのマニュアルを整備し周知徹底を図っている。また会議にて看護師による急変時の対応についての勉強会を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により年2回、日中、夜間想定防災訓練を行っている。訓練時には町内会、ご家族様にも参加、ご協力を頂いている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ時の誘導や声掛けには特に注意し、入居者様のプライバシーや羞恥心へ配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できるような声掛けや、準備をして入居者様の希望に添えるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いやペースを把握し、それぞれの希望に応じた生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや整容等個々人の希望に添えるよう支援している		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食後にお盆拭きを手伝って頂いたり、食事作りを行い一緒に準備している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個々人に合わせた量を提供し、形態も刻みやトロミ等、個々人に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。自身でできない方には職員の支援にて口腔内の清潔を保持している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録の排泄チェック表に記載、排泄パターンを把握したうえで、個々人に合わせた排泄支援を実施している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用、個々人に合わせた排泄支援を実施している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後からの入浴となっているが、できるだけ利用者様の希望、状態に添って行っている。また入浴されていない期間や希望があれば要望に添い支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の身体状況に合わせて、ベッドで臥床して頂く時間や、ソファーでくつろいで頂く等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用は個別に薬情ファイルに保管、全職員に周知している。服薬時には飲みこぼしがないよう職員が見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力、意欲に合わせて役割や出来ること、楽しみ等張のある日々を過ごせるよう支援をしている。お酒の提供など。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って散歩や買い物等に出掛けられるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、自分で買い物へ行く入居者様がおらず、行えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ、いつでも電話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様や職員の作品を飾る等明るい雰囲気配慮している。季節感を取り入れる等の工夫もしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読んだり、趣味を楽しんだり気の合った利用者同士で談笑できるよう席の配置を工夫、くつろげる環境作りに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや使いなれたものを持ってきて頂き、ご本人様が安心して居心地よく過ごすことができるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器を使用しても移動もできるような十分なスペースが確保されている。リビングや廊下の歩行スペースには極力物を置かないよう配慮している		

目標達成計画

事業所名 グループホームみのり新中野

作成日：平成 31年 3月 18日

市町村受理日：平成 31年 3月 19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において、毎回固定のご家族様の参加となっている。	1年を通じ、他のご家族様への参加の声掛けの工夫や出席できないご家族様の意見を聴きとって今後の運営に活かしていく。	関心のある勉強会を行ったり、開催の案内文に、テーマを記載し、関心を持ってもらえるよう工夫していく。	12か月
2	23	センター方式のシートを活用し、担当職員が更新しているが、全利用者様の更新に至っていない。	長期目標の見直し時に担当職員に必ず記載してもらい、カンファレンス時に活用できるようにしていく。	入居者様の言葉を大切に、ご本人様の意向を職員間で共有し、介護計画書に反映させていく。	12か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。